

飛鳥資料館のみどころ (4)

―春期特別展「飛鳥の湯屋」―

飛鳥資料館では、毎年春と秋の2回、特別展示をおこなっています。今回の春期特別展は「飛鳥の湯屋」と題して、前号でも紹介した川原寺鉄釜鑄造遺構復原模型などを展示して4月9日(金)から5月23日(日)の期間(会期中無休)で開催します。

昨年度、飛鳥藤原宮跡発掘調査部が川原寺の北方でおこなった調査で、川原寺北辺を区画する堀や丘陵の東側を利用して築かれた瓦窯などの工房群が発見されました。中でも注目されたのが鉄釜の鑄造施設です。直径2.8mほどの穴の中に、直径90cmほどの鉄釜の鑄型が設置されていました。また、鑄型に鉄を流し込んだ溶解炉の破片もたくさん見つっています。

さらに今回の調査では川原寺の北限を画す掘立柱堀が検出されたことで、川原寺の寺域が南北三町(約330m)と判明するとともに、今回発見された工房群が境内に位置することもあきらかとなりました。寺院の境内に設置された工房の様子がうかがえる例として大変貴重といえます。

今回の展示では、この鑄型でつくられた鉄釜と川原寺の湯屋との関係を想定し、古代寺院の湯屋をテーマに展示を試みました。まず、鑄型から想定される鉄釜がどんなものか理解していただくために、大阪枚方市東楠葉遺跡出土品などの現存する鉄釜を展

示します。また鑄型から想定される鑄造方法を大阪府美原町余部遺跡出土品によって復原的に展示します。

鉄釜は湯釜等に使用されたと考えています。寺院には鉄釜をつかった湯屋がありました。資財帳には多くの釜が記され、温室の記載もあります。しかし、現存最古の湯屋建築である東大寺大湯屋でさえ、延応元年(1239)建立、応永15年(1408)大改造の建物であり、古代の湯屋建築は残っていません。最近になって京都府向日市宝菩提院廃寺で平安時代前期の湯屋遺構が発見されるなど、発掘による湯屋の発見例も増えてきました。今回の展示では、国立歴史民俗博物館に所蔵される永正18年(1521)「上醍醐西谷湯屋指図」とそこから復原される湯屋の模型を展示し、湯屋の構造と鉄釜の使われ方を見ておきたいと考えました。

お風呂好きと言われる日本人のルーツを、古代湯屋と湯釜から探ってみたいと思います。また、特別講演会を下記日程にて開催しますので、あわせてご来聴いただければ幸いです。皆様のご来館をお待ちいたしております。

(飛鳥資料館 西山和宏)

<特別講演会>

●5月8日(土) 午後2時から 飛鳥資料館講堂

「日本古代の鉄鑄物鍋釜の生産」

京都橘女子大学教授 五十川伸矢

■ 記 録

速報展

- 石神遺跡発掘調査(飛鳥藤原第129次)
平成16年1月21日(水)～約2ヶ月間
飛鳥藤原宮跡発掘調査部資料室玄関ホール

研究集会

- 保存科学研究集会2003
国際講演会：日中における古代壁画の保存修復
平成16年2月6日(金) 午前9時50分～
平城宮跡資料館講堂

講演会

- 欧米の庭園考古学とその歴史学への貢献
ミシェル・コナン博士
(ハーバード大学ダンバートン オークス研究所)
平成16年1月22日(木) 午後3時～5時
平城宮跡資料館小講堂

重要文化財指定記念展

- 平城宮跡大膳職推定地出土木簡と
北浦定政関係資料
会 期：平成16年3月2日(火)～14日(日)
会 場：飛鳥資料館
国の重要文化財指定(平成15年5月)を記念する展示で、おもな展示資料は次のとおり。

- ※平城宮跡大膳職推定地出土木簡 9点
「寺請 小豆一斗 ……」(第1号木簡)
「主殿寮 請火事 ……」
「請常食朝夕 ……」
「紀伊国日高郡 ……」
「撫滑海藻」ほか
- ※北浦定政関係資料 11点
「平城宮大内裏坪割図稿」
「畝火山之図」
「瓦器碗図」
「松のおち葉」
「天平尺」ほか

■ お知らせ

春期特別展 ―飛鳥の湯屋―

会期：平成16年4月9日(金)～5月23日(日)

会場：飛鳥資料館 会期中無休

入館料：大人260円、高大生130円、小中学生無料

編集 「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 <http://www.nabunken.jp>

Eメール jimu@nabunken.go.jp

発行年月 2004年3月